

《専門教育科目》

科目名	教育原理	科目ナンバリング	HTAL41002
担当者氏名	未定	担当形態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2 ・ 選択
		開講年次・開講期	1 年 ・ II 期

《授業の概要》

シラバスは授業時に説明

《授業外学習》

授業時に説明

《テキスト》

授業時に説明

《学習状況・理解度の確認》

授業時に説明

《参考図書》

《備考》

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
	授業時に説明

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法 (%)	
試験	0
小テスト	0
レポート	0
発表・実技	0
授業内課題	
その他 ()	100
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				

《専門教育科目》

科目名	教職概論	科目ナンバリング	HTAL41001
担当者氏名	岡田 広示	担当形態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2 ・ 選択
		開講年次・開講期	1 年 ・ I 期

《授業の概要》

教職とは何か、教員の社会的役割は何か、教員の仕事とはどのようなことなのかについてさまざまな角度からアプローチし、教職の意義についての理解を深める。実際の教員の「仕事」や「立場」を、授業、校務分掌、保護者や地域と連携の観点から捉え、チームとしての学校の在り方を考察するとともに、法的な位置づけを理解する。また、教員として求められる資質や能力はどのようなものかについて理解し、自らの課題を明らかにする。

《テキスト》

『教職論（ミネルヴァ教職専門シリーズ3）』 広岡義之・津田徹（編著）、ミネルヴァ書房 『法規で学ぶ教育制度（よくわかる！教職エクササイズ7）』 古田薫・山下晃一（編著）、ミネルヴァ書房 その他必要に応じて資料を配布します。

《参考図書》

授業中に指示します。

《授業外学習》

配布された資料を読んでレポートを作成する。

《学習状況・理解度の確認》

毎回、授業終了時に提出する学習記録カードをコメントを付して返却する。また、質問や重要なコメントに関しては授業内で取り上げて解説する。

《備考》

必要に応じて、グループディスカッション、クラス全体での討議等を実施し考察を深める。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
履修カルテ参照	教員の社会的役割とその歴史の変遷を理解し、自分なりの教職観を持って、自身の課題を省察することができる。
	教員養成と教員免許制度について理解している。
	教員の任免と服務について理解している。
	教員の種類と職務、校務分掌について理解している。
	教員に求められる資質能力と研修について理解している。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	60
小テスト	10
レポート	20
発表・実技	5
授業内課題	5
その他()	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	教職とは	・本講義の進め方について理解し、主体的に学習に取り組む意欲を持ち、教員を目指すものとしての姿勢について考察する。	教員採用試験について	60分
2	さまざまな教職観とその歴史の変遷	・教職観の歴史の変遷をたどりながら、教職とは何かを考察し、自分自身の教職観、教員像を獲得する。	良い教員とは	60分
3	教員に求められる資質・能力	・教員に求められる資質・能力を、さまざまな答申やデータから読み解き、自分自身の課題を明らかにする。	プリントを読んで感想を書く	60分
4	教員養成と教員免許制度	・教員免許制度の法的側面を学び、教員養成の仕組みを理解する。・教員採用試験の概要を知り、採用試験までの展望を持つ。	採用試験合格に向けた計画	45分
5	教員の職務①:教員の種類と職務、校務分掌、チーム学校	・学校の教育活動を支える教員組織と役割分担、連携協力、チーム学校の意義を理解する。	校務分掌について調べる	45分
6	教員の職務②:学習指導、生徒指導、その他	・学習指導、生徒指導、進路指導、教育相談、その他の教員の職務について理解する。	教員の一日をレポートする	45分
7	教員の職務③:保護者・地域との連携協力	・保護者や地域住民との連携協力の意義を理解し、どのようなあり方が望ましいかを考察する。	事例を調べる	45分
8	教員の職務④:アカウントビリティと学校運営	・学校運営のプロセスを理解する。・学校の果たすべきアカウントビリティとは何かを理解する。	学校評価の結果を分析する	45分
9	教員の人事管理①:服務	・地方公務員法および教育公務員特例法等から教員の服務と身分について理解する。	プリントを読んで感想を書く	60分
10	教員の人事管理②:任免と服務の監督、懲戒	・教員の任免に係る制度、教員の身分保障と分限、懲戒等について理解する。	プリントを読んで感想を書く	60分
11	教員の人事管理③:教員評価	・教員評価の意義と課題について理解する。	プリントを読んで感想を書く	60分
12	教員の資質向上と研修	・教員の研修制度について理解し、資質向上のためにどのような取り組みを行う必要があるかを考察する。	教員としてのキャリア計画	45分
13	教員の労働環境	・教員の勤務実態、労働条件について、事例にそって理解する。	プリントを読んで感想を書く	60分
14	教師という仕事—やりがいと悩み—	・教員としてのやりがいや悩みについて、さまざまな文献を通して教員の生の声を聞き、教職に対する自分自身の考えを整理する。	事例を調べる	45分
15	目指す教員像と課題	・学習を振り返って、教職とは何かを考察する。・どのような教員になりたいかを、多様な視点から述べ、自らの課題を明らかにする。	どのような教員をめざすか	60分

《専門教育科目》

科目名	教育制度論	科目ナンバリング	HTAL42005
担当者氏名	岡田 広示	担当形態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2 ・ 選択
		開講年次・開講期	2 年 ・ I 期

《授業の概要》

教育行政の組織と機能および学校教育に必要な法令や制度の基本、重要語句・概念についての理解を深め、教員となるために必要な教育制度や学校経営についての体系的な知識を獲得する。教育法規の体系や、教育の理念・目的・目標、教育の機会均等を実現するための教育行政の仕組みや学校制度、学校運営について学習するとともに、今日の教育の課題と教育改革の動向を理解し、学校制度・学校経営の視点から考察することにより自分自身の考えを深める。

《授業外学習》

- ・授業の前までに教科書の当該箇所に通しておく。
- ・授業の要点をまとめたノートを作成する。

《テキスト》

『法規で学ぶ教育制度（よくわかる！教職エクササイズ7』（古田薫、山下晃一編著 ミネルヴァ書房）必要に応じてプリントを配布する。

《学習状況・理解度の確認》

授業の終わりに提出するリアクションペーパーで理解度を把握し、補足や質問に対する回答を行う。小テーマごとにミニテストを実施する。

《参考図書》

『解説教育六法』三省堂 『図解・表解 教育法規“確かにわかる”法規・制度の総合テキスト』坂田 仰他、教育開発研究所

《備考》

- ・必要に応じてグループ学習やディスカッションを実施する。
- ・配布資料は順番に整理し、ファイルに保存しておくこと。
- ・授業でわからなかった点は調べたり、次回の授業時に質問すること。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
履修カルテ参照	教育法規の体系を理解し、主な教育関係法規名とその概要を説明できる。
	教育の理念や目的・目標について理解し、義務教育の意義および特別支援教育の特質を説明できる。
	教育行政の仕組みや学校制度について理解している。
	学校運営について理解している。
	今日の教育の課題と教育改革の動向を理解し、自分自身の考えを述べるができる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	60
小テスト	20
レポート	0
発表・実技	5
授業内課題	
その他()	15
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	教育行政と教育制度の基礎知識	・教育制度を学ぶ意義を理解する。 ・教育行政、教育制度の基本概念を理解する。	テキスト予習 まとめノートの作	45分
2	法体系と教育関係法規の概要	・法規の体系と、日本の教育制度の法的・制度的枠組みを理解し、その課題について考察する。	テキスト予習 まとめノートの作	45分
3	憲法教育基本法制①教育に関する規定	・憲法における教育に関する規定、教育制度の法的基盤を理解する。 ・教育基本法改正の背景とポイントを理解する。	テキスト予習 まとめノートの作	45分
4	憲法教育基本法制②教育基本法	・教育基本法の意義と内容を理解する。	テキスト予習 まとめノートの作	45分
5	学校教育の基本	・学校教育の目的と目標、学校教育に関する様々な基本的法規を理解する。	テキスト予習 まとめノートの作	45分
6	教育行政のしくみ①文部科学省と教育委員会	・文部科学省と教育委員会の関係と役割分担を理解する。 ・中央教育審議会やその他の諮問機関の役割と影響を理解する。	テキスト予習 まとめノートの作	45分
7	教育行政のしくみ②教育委員会	・教育委員会制度の成立と発展の歴史を理解する。 ・教育委員会制度の概要と意義を理解する。	テキスト予習 まとめノートの作	45分
8	教育を受ける権利の保障	・教育を受ける権利を保障するための義務教育制度、就学援助、教育扶助の概要を知る。	テキスト予習 まとめノートの作	45分
9	学校の組織と運営①チーム学校	・学校運営の基本原則とチーム学校の意義を理解する。 ・学校評価について理解する。	テキスト予習 まとめノートの作	45分
10	学校の組織と運営②学校運営の管理	・学校運営におけるさまざまな管理を理解する。	テキスト予習 まとめノートの作	45分
11	学校の組織と運営③保護者・地域に関する法規	・学校と保護者・地域に関する法規と制度を理解する。	テキスト予習 まとめノートの作	45分
12	教育課程・教育活動に関する法規、学校指導要領	・学校教育における学習指導要領教育学的・法的位置づけ、意義及び取り扱いについて理解する。	テキスト予習 まとめノートの作	45分
13	学校運営と学校安全	・学校安全/学校保健の目的と必要性を理解する。	テキスト予習 まとめノートの作	45分
14	児童生徒に関する法規	・就学と在学、卒業、懲戒および出席停止に関する法規を理解する。	テキスト予習 まとめノートの作	45分
15	児童生徒をめぐる様々な問題	・学校におけるさまざまな問題とそれらに対する対応等について理解する。	学校における諸問題についてレ	90分

《専門教育科目》

科目名	教育心理学	科目ナンバリング	HTAL42004
担当者氏名	大平 曜子	担当形態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2 ・ 選択
		開講年次・開講期	1 年 ・ II 期

《授業の概要》

教育科学の一分野であり、人間形成に関わる独自の理論と方法を提示する実践的な学問である。受講者は、幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程の基礎的知識を修得し、教育における心理学的領域の理解を通して学習活動を支える人間科学的な視点を養うことができる。授業では、「発達」と「学習」を中心に、パーソナリティと適応、測定と評価、そして学級集団や教師の心理などについて学び、それぞれの専門領域の教育に応用する方法を修得する。

《授業外学習》

プリントに基づいて授業内容を整理する。授業の中で提示された課題について、参考文献等に目を通す。専門用語や関心を持った事項は詳しく調べておく。

《テキスト》

テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

《学習状況・理解度の確認》

レポートはコメントを付して返却する。疑問や質問には個別に回答すると共に、次回の授業で補足説明をして理解を確認する。

《参考図書》

『絶対役立つ教育心理学』藤田哲也編著 ミネルヴァ書房 その他、適宜紹介する。

《備考》

グループワークを数回実施する。毎回、授業終了時に「授業の振り返り」を記入し、提出することで参加状況を確認する。授業担当者は、教職経験をもつ実務経験者である。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
履修カルテ参照	発達の概念と発達理解の意義を理解し、教育の観点から各発達段階を理解し課題を見出すことができる。
	学習の概念を理解し、代表的学習理論から学習の考え方をまとめ、発表することができる。
	主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方について、発達の特徴と関連付けて説明できる。
	主体的な学習活動を支える学習指導法を専門科目と関連させて理解することができる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	60
小テスト	10
レポート	10
発表・実技	0
授業内課題	20
その他()	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション	授業の進め方を理解し、自らの学習方法を確認する。教職における教育心理学の位置づけを理解し、本授業受講の意味を確認する。	次週の授業内容の確認	45分
2	教育心理学の課題	教育心理学の定義を理解する。現代的教育課題や学習課題を理解し、教育心理学の意義や役割、教育方法とのかかわりについて理解する。	配布プリントを読み理解する	60分
3	発達の基礎理論 (1)	発達原理、発達の諸理論について理解する。	配布プリントを読み理解する	45分
4	発達の基礎理論 (2)	発達の様相、成熟と発達を理解し、遺伝と環境などの関係因子を考える。	配布プリントを読み理解する	45分
5	発達の基礎理論 (3)	発達の過程における段階的区分を理解し、各段階の発達内容や課題を確認する。	配布プリントを読み理解する	45分
6	学習の基礎理論 (1)	学習の成立、学習の過程、知能と学力について理解する。	配布プリントを読み理解する	45分
7	学習の基礎理論 (2)	学習の理論、学習の概念	配布プリントを読み理解する	45分
8	教育評価 (1)	教育評価の概念、意義と役割、評価方法の理解。グループを形成し、評価観点を決定して相互評価を行う。課題を確認し、方法を理解する。	課題のための資料の収集	90分
9	学習の基礎理論 (3)	記憶の種類と特徴、記憶と学習	課題の作成	120分
10	学習の基礎理論 (4)	動機づけとやる気、意欲と学習活動 動機づけを高める工夫	課題の作成	120分
11	教育評価 (2)	学力と知能と性格の測定 測定と評価の実際	配布プリントを読み理解する	45分
12	教育評価 (3)	相互評価の実際	配布プリントを読み理解する	45分
13	学習指導法	発見学習、プログラム学習、グループ学習等、授業の最適化	配布プリントを読み理解する	45分
14	教師と児童生徒のコミュニケーションと集団の理解	コミュニケーション能力と対人関係、教師が及ぼす影響力 「集団」の促進機能、抑制機能	配布プリントを読み理解する	60分
15	教育における心理学の働きまとめ	教育相談、人間関係。これまでの学習と得られた知見を再確認し、具体的な成果を説明する。	授業内容の整理 試験対策	120分

《専門教育科目》

科目名	特別支援教育論	科目ナンバリング	HTAL42012
担当者氏名	杉田 律子	担当形態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2 ・ 選択
		開講年次・開講期	2 年 ・ II 期

《授業の概要》

2007年4月より、特別支援教育の対象は軽度発達障害児まで、また通常学級で学ぶ子どもへの支援まで含まれるようになった。今後は一層、インクルージョンが進むと予測され、すべての学校教員が特別な教育支援を必要とする子どもたちの支援を学ぶ必要がある。この講義では、教員免許取得を目指す者として、最低限必要な障害の理解、特別支援教育の歴史的背景について学ぶとともに、子ども達とその家族への支援について考えることができることを目標とする。

《授業外学習》

事前学習課題を提示し、発表し合うことにより深く学ぶ学修を含む。積極的に課題に取り組むこと。

《テキスト》

杉中拓央ら編「教職をめざす人のための特別支援教育」福村出版

《学習状況・理解度の確認》

毎回manabaを使用した「学びの振り返り」を行い、次回授業開始時に講評。必要に応じて小テストや課題を実施し、コメントを返す。オフィスアワーや授業の前後での質問に応じます。筆記テストでは、基本的な知識を問う問題と事例から支援方法を考え総合的な力を確認する

《参考図書》

新版キーワードブック特別支援教育（玉村公二彦ら編、クリエイツかもがわ）

《備考》

担当者は早期療育指導員として聴覚特別支援学校内の難聴幼児早期療育教室で勤務歴のある実務経験者

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
履修カルテ参照	教員免許状取得を目指す者として、最低限必要な障害等の概要を理解できる。
	子どもに適した支援方法を学び、教材研究の方向性を理解し、障害児の家族への支援について考えることができる。
	外国籍や貧困など特別な教育的ニーズのある子どもへの支援の方法を理解する。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	60
小テスト	
レポート	10
発表・実技	20
授業内課題	
その他()	10
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	特別支援の必要な子どもの理解①特別支援教育の理念	インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育に関する理念や仕組み、ICF, 合理的配慮	学習のまとめプリント	45分
2	特別支援の必要な子どもの理解②特別支援教育の制度	特別支援教育の歴史的変遷と特別支援教育の制度、通級指導、自立活動	事前学習プリント	45分
3	視覚障害・聴覚障害の理解	視覚障害と聴覚障害のある子どもの心身の発達、心理的特性及び学習の過程	学習のまとめプリント	45分
4	視覚・聴覚障害教育の教育課程および支援の方法	視覚障害・聴覚障害のある子どもの教育課程や支援の方法を理解する。	事前学習プリント	45分
5	知的障害、肢体不自由、病弱の理解	知的障害児、肢体不自由児、病弱児の心身の発達、心理的特性及び学習の過程	事前学習プリント	45分
6	知的障害児の教育課程および支援の方法	知的障害児の教育課程や支援の方法	学習のまとめプリント	45分
7	肢体不自由児の教育課程および支援の方法	肢体不自由児の教育課程や支援の方法	事前学習プリント	45分
8	病弱児の教育課程および支援の方法	病弱児の教育課程や支援の方法	事前学習プリント	45分
9	発達障害の理解	発達障害児の教育課程や支援の方法	事前学習プリント	45分
10	発達障害児教育の教育課程および支援の方法	自閉症、ADHD, LDなどの発達障害の特性とその支援方法について理解する。	学習のまとめプリント	45分
11	特別支援の教育課程と個別支援計画	通常学校における、感覚障害のある子どもに対する個別支援、自立支援の方法について理解を深める。	事前学習プリント	45分
12	特別支援の教育課程および支援の方法	特別支援教育コーディネーター、関係機関・家庭と連携しながら支援体制を構築することの必要性	事前学習プリント	45分
13	家庭支援と教育相談	保護者に対する支援と教育相談 心理的アプローチ	学習のまとめプリント	45分
14	特别的教育的ニーズのある子どもの把握と支援	その他、特别的教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難とその対応	事前学習プリント	45分
15	インクルージョンの実現と障害理解教育	合理的配慮を前提にしたクラス運営を実現するため、障害理解教育について理解する	学習のまとめプリント	60分

《専門教育科目》

科目名	教育課程論		科目ナンバリング	HTAL42006
担当者氏名	未定		担当形態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2	・ 選択
			開講年次・開講期	2 年 ・ II 期

《授業の概要》

シラバスは授業時に説明

《授業外学習》

授業時に説明

《テキスト》

授業時に説明

《学習状況・理解度の確認》

授業時に説明

《参考図書》

《備考》

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
	授業時に説明

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法 (%)	
試験	0
小テスト	0
レポート	0
発表・実技	0
授業内課題	
その他 ()	100
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				

《専門教育科目》

科目名	道徳教育の理論	科目ナンバリング	HTAL43014
担当者氏名	林 敦司	担当形態	単独
授業方法	講義	単位・必選	1 ・ 選択
		開講年次・開講期	3 年 ・ I 期

《授業の概要》

道徳教育の歴史と原理を学ぶことを通して、その意義を理解するとともに、道徳性の発達に関する理論を学び、道徳教育の目標や内容を把握する。また、道徳科の特質を踏まえながら、「考え、議論する道徳」を実現するための多様な指導方法を用いた授業構想力と実践的指導力を身に付ける。さらに、小・中学校の道徳科や高等学校における道徳教育など広い視野から具体的な取組を分析・検討することで、学校教育活動全体で進める道徳教育の在り方を考察する。

《授業外学習》

- ・事前にテキストの指定箇所を通読し、疑問点をノートに書くなど、課題意識を持って授業に臨むこと。
- ・授業後に資料を見直したり、ノートを整理したりするなど、自己学習による補充を行なうとともに、授業中での発表や話し合いから得られた学びをもとに、授業構想や学習指導案の改善を図ること。
- ・本講義の道徳教育の研究が、自身の専門分野に生かされるように積極的に学習を進めてほしい。

《テキスト》

『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科 道徳編』文部科学省、教育出版

《学習状況・理解度の確認》

レポートなどの提出物にコメントを付して指導するとともに、返却後に要点の解説を行なうことで知識の確実な定着を図る。

《参考図書》

1. 『道徳教育を学ぶための重要項目100』貝塚茂樹・関根明伸 編著、教育出版 2. 『「道徳科」評価の考え方・進め方』永田繁雄 編集、教育開発研究所

《備考》

模擬授業の演習ではグループによる討議や発表を実施するので、課題意識を持って授業に参加してほしい。担当者は教諭及び管理職として学校勤務や教育実習指導歴のある実務経験者である。 Theory of Moral Education

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
履修カルテ参照	道徳の歴史や意義を踏まえて、児童生徒の発達段階を踏まえた道徳教育について主体的に考えることができる。
	道徳教育における要としての道徳科の役割を理解し、カリキュラム・マネジメントについて説明できる。
	道徳教育を推進するための役割を理解し、職務や専門性と関連づけて考えることができる。
	教材活用・指導過程・指導方法などを理解して、学習指導案を作成することができる。
	アクティブ・ラーニングを踏まえた道徳科の授業づくりと評価について説明できる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	0
小テスト	0
レポート	50
発表・実技	0
授業内課題	30
その他()	20
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	近代日本の道徳教育の変遷と教科化の背景	我が国の道徳教育の変遷と世界の道徳教育の動向を踏まえながら、現状と課題、道徳科に求められている問題を考察する。	テキストp.1～p.7通読	45分
2	道徳教育の意義と道徳性の発達	学校教育全体で取り組む道徳教育の意義と、児童生徒の心の成長課題について理解する。	配布資料通読	60分
3	学習指導要領の内容と道徳科の意義	学習指導要領解説の理解を深め、幼・小・中・高の系統性も踏まつつ、道徳科の誕生による新しい道徳教育を構想する。	テキストp.8～p.18	60分
4	道徳科の内容	内容項目の構成や系統性、取扱いについて理解し、道徳科の年間指導計画の作成方法や手順について考察する。	テキストp.19～p.25	60分
5	道徳科の指導と教材活用	児童生徒が問題意識を持って多面的・多角的に考えたり、感動を覚えたりする教材の活用について考察する。	テキストp.76～p.85 配布資料通読	60分
6	カリキュラム・マネジメントと指導計画	道徳教育における指導計画中の道徳科の役割を知り、カリキュラム・マネジメントについて具体的に理解する。	テキストp.70～p.75	60分
7	道徳教育と他の教育活動との関わり	中学校・高等学校の道徳教育について、保健体育科・健康教育・食育など様々な教育活動との関連を踏まえて理解する。	配布資料通読	60分
8	道徳科の評価とアクティブ・ラーニング	道徳科の評価の在り方と方法を理解し、アクティブ・ラーニングを踏まえた学習指導案を作成する。	テキストp.109～p.118	75分
9	予備日			45分
10	予備日			45分
11	予備日			45分
12	予備日			45分
13	予備日			45分
14	予備日			45分
15	予備日			45分

《専門教育科目》

科目名	特別活動・総合的な学習の時間	科目ナンバリング	HTAL43015
担当者氏名	岡本 洋之	担当形態	単独
授業方法	講義	単位・必選	1 ・ 選択
		開講年次・開講期	3 年 ・ I 期

《授業の概要》

特別活動については、その意義、目標、内容、及び指導の在り方を学習する。総合的な学習（探求）の時間については、その意義、各学校において目標及び内容を定める際の考え方、指導計画作成の考え方を理解し、その実現のために必要な基礎的な能力の内容を身に付けるとともに、指導と評価の考え方及び実践上の留意点を修得する。

《授業外学習》

特別活動は日本の学校教育の中で特色ある分野であり、また総合的な学習（探求）の時間は時代の要請に応じて近年力が入れている分野である。このことをふまえて、両分野のみならず学校教育界全体の動きを日ごろからニュース等で十分に把握しておくこと。

《テキスト》

中学校学習指導要領（文部科学省）とその解説 高等学校学習指導要領（同）とその解説（※ただし購入する必要はない。必要な分を授業中にプリントして配布する。また文部科学省サイトよりダウンロードすることも可能である）

《参考図書》

中学校学習指導要領の展開 特別活動編／総合的な学習編（明治図書） 高等学校新学習指導要領の展開 特別活動編（同）

《学習状況・理解度の確認》

毎回授業後に振り返りの短文を書くことを求め、次回の授業に生かす。提出物にはコメントを付して返却する。質問は、可能な限り随時受け付ける。担当教員のメールアドレス…okamotoh@hyogo-dai.ac.jp

《備考》

担当者は教員として高等学校での勤務歴のある実務経験者である

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
履修カルテ参照	学校教育における特別活動の意義を理解し、人間関係形成・社会参画・自己実現や“チーム学校”の視点を持つ。
	学年による特別活動の変化、各教科等との関連、地域住民や他校と連携した対応等に必要知識や素養を体得する。
	総合的な学習/探求の時間での社会・生活課題探究のための指導計画作成/指導法/評価の知識技能を体得する。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	
小テスト	20
レポート	60
発表・実技	20
授業内課題	
その他()	
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション	本授業の到達目標及びテーマ、概要、評価方法	自分の学校生活を振り返る	90分
2	特別活動（1）	学習指導要領における「特別活動」の目標と内容	学習指導要領を読む	90分
3	特別活動（2）	教育課程における「特別活動」の位置付けと各教科等との関連	学習指導要領解説を読む	90分
4	特別活動（3）	学級活動・ホームルーム活動、生徒会活動、クラブ活動、学校行事の特質	現場が抱える問題を考える	90分
5	特別活動（4）	「特別活動」における評価と改善活動	現場の課題を考える	90分
6	特別活動（5）	集団活動	実践例を調べてくる	90分
7	特別活動（6）	家庭・地域住民や関係機関との連携	先進例を調べてくる	90分
8	特別活動（7） 総合的な学習（探求）の時間（1）	「特別活動」に関する総括 「総合的な学習（探求）の時間」の意義と教育課程における役割	学習指導要領を読む	90分
9	総合的な学習（探求）の時間（2）	学習指導要領における「総合的な学習（探求）の時間」の目標、各学校における目標及び内容の設定	学習指導要領解説を読む	90分
10	総合的な学習（探求）の時間（3）	年間指導計画の作成	実践例を調べてくる	90分
11	総合的な学習（探求）の時間（4）	単元計画の作成	先進例を調べてくる	90分
12	総合的な学習（探求）の時間（5）	探究的な学習の過程と方法	現場が抱える問題を考える	90分
13	総合的な学習（探求）の時間（6）	「総合的な学習（探求）の時間」の評価	現場の課題を考える	90分
14	総合的な学習（探求）の時間（7）	「総合的な学習（探求）の時間」に関する総括	自分の学校生活を振り返る	90分
15	本授業全体の総括	「特別活動」、「総合的な学習（探求）の時間」と「生きる力」	本授業全体を振り返る	90分

《専門教育科目》

科目名	教育方法・技術論	科目ナンバリング	HTAL42009
担当者氏名	吉永 潤	担当形態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2 ・ 選択
		開講年次・開講期	2 年 ・ II 期

《授業の概要》

教育方法・技術及び教育評価に関する基礎的理論・概念の理解を踏まえ、現代社会が求める主体的、対話的で深い学びの実現を生む教育方法と技術についての理解、とりわけ情報機器の教育的機能についての理解を深める。以上の上で、学習指導案の作成をグループ作業として体験し、成果を相互に交流・批評する。

《授業外学習》

グループで学習指導案作成を行うため、授業外でのグループワークを要する。

《テキスト》

WEBにて資料配布を行う。

《学習状況・理解度の確認》

各授業後に小レポートを課する。

《参考図書》

吉永潤『社会科は「不確実性」で活性化する—未来を開くコミュニケーション型授業の提案』東信堂、2015

《備考》

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
履修カルテ参照	教育方法の基礎的理論を理解し、教育実践での活用が行える。
	現代の教育実践に求められる「主体的・対話的で深い学び」を実現するための教育方法の重要性を理解している。
	深い学習と対話的授業の実現のために情報機器の活用方法が理解でき、実践活用できる。
	学習者自身の情報機器活用能力育成と情報モラル形成の意義が理解できる。
	以上を踏まえて学習指導案を構成でき、その相互批評を通じて授業改善の重要性が理解できる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	60
小テスト	
レポート	
発表・実技	20
授業内課題	
その他()	20
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション	授業と学びの質を左右する教育方法・教育技術・情報機器活用	授業内容の復習	45分
2	教育方法の基礎的理論と概念	教授と学習、教育方法と教育内容、問題解決学習と系統学習	授業内容の復習	45分
3	現代に求められる教育方法1	知識・理解とその主体的・実践的活用能力の育成	授業内容の復習	45分
4	現代に求められる教育方法2	対話・コミュニケーション能力と協同的問題解決能力の育成	授業内容の復習	45分
5	授業と学習を構成する環境1	学習素材としての教科書、教材、学習者の多様な既有経験	授業内容の復習	45分
6	授業と学習を構成する環境2	情報機器の意義とその活用法	授業内容の復習	45分
7	学習と授業の評価1	教育目標と学習評価の不即不離性、多様な学習評価の考え方と方法	授業内容の復習	45分
8	学習と授業の評価2	学習評価を通じた授業の評価と改善のサイクル	授業内容の復習	45分
9	対話的授業を生む教育方法1	多様性と対話を生み出す教材構成と問い・課題設定	授業内容の復習	45分
10	対話的授業を生む教育方法2	学びを可視化・共有・定着させる板書と情報機器活用	授業内容の復習	45分
11	対話的授業を生む教育方法3	学習者による情報機器活用能力の育成と情報モラルの形成	授業内容の復習	45分
12	学習指導案の開発と交流1	グループ形成、教科選定、教材・指導案構成の話し合い	グループワーク	90分
13	学習指導案の開発と交流2	学習指導案プレゼンテーション1	グループワーク	90分
14	学習指導案の開発と交流3	学習指導案プレゼンテーション2	グループワーク	90分
15	講義全体のまとめ	学習指導案の相互評価と授業全体の振り返りディスカッション	授業内容の全体に関する復習	45分

《専門教育科目》

科目名	生徒指導論	科目ナンバリング	HTAL42010
担当者氏名	上田 裕司	担当形態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2 ・ 選択
		開講年次・開講期	2 年 ・ I 期

《授業の概要》

受講者は、学習指導と並ぶ学校における重要な教育活動である生徒指導が、「児童生徒一人一人の人の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して、全ての教育活動を通じて行われるものである」ことを理解し、教師としての対応力を身につける。

《授業外学習》

テキストの生徒指導提要のページをしっかりと読んでおくこと。

《テキスト》

生徒指導提要（平成22年3月 文部科学省）

《学習状況・理解度の確認》

毎回のコメント用紙に記入された事柄について、重要と考えられるものについて講義のはじめに解説する。

《参考図書》

子どもの社会性を育む積極的生徒指導（中村豊著、学事出版）

《備考》

必要に応じてグループワークを実施する。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
履修カルテ参照	生徒指導の意義や原理について理解する
	全ての学級・学年・学校における生徒指導の進め方について理解する
	生徒指導上の課題を把握しチームとしての学校を確立し外部関係機関との連携を含めた生徒指導の在り方を理解する

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	40
小テスト	
レポート	30
発表・実技	
授業内課題	30
その他()	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション	積極的生徒指導の意義と原理		60分
2	生徒指導と学習指導	生徒指導と各教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動との関連について	生徒指導提要P23	60分
3	校内における組織体制の在り方	学校における生徒指導体制と教育相談や特別支援教育校内支援体制と連携及びその違いについて	生徒指導提要P88-89	60分
4	集団と個	全体指導と個別指導に対応できる柔軟な対応策について	生徒指導提要P75-77	60分
5	生徒指導に関する調査結果	学校における問題行動の現状と課題	文部科学省HP	60分
6	事例研究	いじめについての具体的な対応策の検討	生徒指導提要P173-174	60分
7	事例研究	不登校等について、家庭訪問を含めた対応策の検討	生徒指導提要P187-189	60分
8	事例研究	児童虐待について児童相談所や警察との連携を通じた対応策について	生徒指導提要P212-217	60分
9	児童生徒理解と生徒指導	発達障害の児童生徒への理解と学級づくりについて LD, ADHD, ASD等の児童生徒と集団の関り	生徒指導提要P42-537	60分
10	講義と事例研究	校種間連携の現状と課題	生徒指導提要P75-77	60分
11	生徒指導と連携	児童生徒の問題行動をめぐる学校・家庭・地域・関係機関の連携の現状と課題（青少年の行動の理解－インターネットと性）	生徒指導提要P178-179	60分
12	特別活動との関連	生徒指導と学級・学校経営について	生徒指導提要P138-141	60分
13	法規に準じた生徒指導	問題行動に対する懲戒と関連法規について		60分
14	生き方としての生徒指導	キャリアカウンセリングと今日的な生徒指導の在り方		60分
15	まとめと試験	自尊感情を育む積極的生徒指導の意義についてのまとめと確認のための試験		60分

《専門教育科目》

科目名	教育相談（カウンセリングを含む。）			科目ナンバリング	HTAL41011
担当者氏名	原 志津			担当形態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2	・ 選択	開講年次・開講期
					2 年 ・ II 期

《授業の概要》

教育相談は、幼児、児童、及び生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。幼児、児童、生徒の発達状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎知識を含む）を身に付ける。

《授業外学習》

授業で紹介する事柄で、関心のあることには積極的に調べて学んでください。このころについて学ぶための本のリストを初回授業で配布するので、その中から一冊を選んで手書きで5枚の感想文をかいいて、最終授業日に提出してください。

《テキスト》

コンパス「教育相談」 建帛社 住本克彦編著

《学習状況・理解度の確認》

小テストやレポートはコメントをつけて返却する。最終回の「まとめ」は全体的な講評を伝える。

《参考図書》

学習指導要領(文部科学省) 生徒指導提要(文部科学省) 「スクールカウンセラーがすすめる112冊の本」 滝口・田中 創元社

《備考》

教員は、臨床心理士の資格をもつ実務家教員である。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
履修カルテ参照	カウンセリングの基本技術を学ぶ。
	自分自身のところに焦点を当てる方法を学ぶ。
	子どもたちのサインに気づき、こころの成長・変化のプロセスを知る。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	65
小テスト	
レポート	20
発表・実技	
授業内課題	
その他()	15
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション	15回の授業の構成について。「人の話しくく」ということの心得を考える。	配布資料を読んで復習	45分
2	カウンセリングの基礎	カール・ロジャーズのクライアント中心療法について学ぶ。	基本用語の整理	45分
3	カウンセリングの実習	カウンセリングの実習（ロールプレイ）をおこなう。	前回の配布資料を読む	45分
4	カウンセリングのプロセスについて	カール・ロジャーズの「心理療法の過程概念」を学ぶ。	配布資料の整理	45分
5	フォーカシングについて	カウンセリングの「過程概念」から発展した「フォーカシング」について学ぶ。	配布資料を読む	45分
6	自分自身のテーマを知る	「フォーカシング」実習と自分自身のテーマを知るための心理テストを体験する。	心理テストの感想レポート	45分
7	こころと身体	身体に異常がないのに起こる「症状」について臨床心理学の考え方を学ぶ。	配布資料の復習・予習	45分
8	軽度発達障害について	軽度発達障害について、運動発達という側面から学ぶ。	配布資料の復習・予習予	45分
9	子どもたちの育つ環境の問題	大人が子どもたちの発達を妨げている事例について学ぶ。	配布資料の整理	45分
10	箱庭療法について	箱庭療法が生まれた背景とその理論について学び、不登校の事例について知る	配布資料の復習	45分
11	PTSDについて	心的外傷体験について学ぶ	配布資料の復習	45分
12	教師のメンタルケア・ストレスコーピング	教師のメンタルケアとストレスコーピングについて学ぶ	テキスト11章を読む	45分
13	教育と福祉の連携	スクール・ソーシャルワーカーの役割と専門機関との連携について	テキスト12章を読む	45分
14	いじめについて	いじめの被害者・加害者への理解と対応について学ぶ。	テキスト5章を読む	45分
15	学習のまとめ	自分なりに今後の教育現場で活かせるよう授業の学びをふりかえる。	配布資料の整理・振り返り	60分

《専門教育科目》

科目名	養護実習（事前・事後指導）	科目ナンバリング	HTY043001
担当者氏名	大平 曜子・米野 吉則・服部 紀代	担当形態	複担
授業方法	演習	単位・必選	1 ・ 選択
		開講年次・開講期	3 年 ・ II 期

《授業の概要》

養護実習は、これまでの専門知識や理論、技術や感性を実践の場で展開する機会であり、教職免許取得において重要な実習である。3年生のこの時期は、養護教諭の職務内容と、教師として知っておくべき事柄を再確認し、実習の目的と各自の目標を明確にし、実習校に赴くための準備をおこなう期間である。事前指導では、知識や技術の習得を通じて、教員としての心構えや態度を理解し準備することができる。

《授業外学習》

実習に向けて文献を参考に知識の確認と定着をはかる。基礎的技術の確認は、各自で実習室を有効に利用して行う。実習期間中の生活時間帯を想定して、規則正しい生活習慣を確立しておく。

《テキスト》

兵庫大学健康システム学科作成「養護実習の手引き」（授業の中で配布します）

《学習状況・理解度の確認》

実践に対しては、その都度、相互評価をおこない、質問には随時応じる。到達目標に対して講評をおこなう。

《参考図書》

『新養護概説』 采女智津江編 少年写真新聞社 『児童・生徒の健康診断マニュアル』 日本学校保健会 第一法規

《備考》

養護実習に向けて、各自が出来る限りの準備を行う。主体的参加と、自主的学習を心掛ける。授業担当者は、養護教諭の免許を有し教職経験をもつ、実務経験者である。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
履修カルテ参照	養護実習の手引の目標を理解し、自らの目標に反映できる。
	養護教諭にとって必要な知識技術がわかり、その修得状況が確認できる。
	定めた実習目標を達成すべく取り組むべき課題がわかり、また、適切な対処行動がとれる。
	実習全体を見通し、計画的に準備を進めることができる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	0
小テスト	0
レポート	0
発表・実技	40
授業内課題	40
その他()	20
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション	養護実習に向けて、授業の趣旨説明 心構えと注意点、事前学習の進め方、実習と採用試験	職務の点検確認	45分
2	養護実習内容について	教育職員に関する事、学校教育に関する事、学校保健の考え方、進め方に関する事	職務の点検確認	45分
3	救急処置について	保健室対応と課題(設定、観察、判断、処置・対応、保健指導)、	保健室予習・復習	45分
4	救急処理技術のテスト	たたみ三角巾、前腕骨折、バイタル測定の確認テストの実施	救急処置の復習	45分
5	手当の記録	手当の仕方と記録のとり方	復習と次週の予習	45分
6	保健室の器具の管理と使用	器具の名称と用途の確認	復習と次週の予習	45分
7	保健室における衛生管理	煮沸消毒、薬液消毒、高圧蒸気滅菌の方法の確認	保健だよりの資料の収集	60分
8	健康観察の実際	観察の視点と方法の実際	掲示物の資料の収集	60分
9	保健だよりの作成①	保健だよりの目的や構成の実際	ロールプレイングの予習	45分
10	保健だよりの作成②	資料の収集と作成	ロールプレイングの予習・復習	45分
11	保健だよりの作成③	相互評価	ロールプレイングの予習・復習	45分
12	掲示物の作成①	掲示物の目的や構成の実際	ロールプレイングの予習・復習	60分
13	掲示物の作成②	資料の収集と作成	復習、テスト準備	60分
14	掲示物の作成③	相互評価	実技の総復習	45分
15	次年度の養護実習に向けて	養護教諭の職務の再確認	復習	45分

《専門教育科目》

科目名	養護実習	科目ナンバリング	HTY044002
担当者氏名	大平 曜子・米野 吉則・服部 紀代	担当形態	複担
授業方法	実習	単位・必選	4 ・ 選択
		開講年次・開講期	4 年 ・ 通年

《授業の概要》

養護実習は、これまでに修得したの専門知識や技術、理論や感性を現実の教育の場で実践する機会であると同時に、実践を通じて学びを深める機会と考えられます。教員免許取得において実習は必須であり、学生は、実習の意義、目的、各自の目標を明確にすることを通して、実習に向けた具体的準備をすることができます。また、実習全般を通じて、主体的学びと指導者からの助言を得て自らの課題を見出し、解決への方途を探り、質の高い養護教諭へと成長することができます。

《授業外学習》

実習に向けて文献を参考に知識の確認と定着をはかる。基礎的技術の確認は、各自で実習室を有効に利用して行う。実習期間中の生活時間帯を想定して、規則正しい生活習慣を確立しておく。

《テキスト》

兵庫大学健康システム学科作成の「養護実習の手引き」

《学習状況・理解度の確認》

実習記録「養護実習ノート」はコメントを付して返却する。

《参考図書》

「新養護概説」 采女智津江編 少年写真新聞社 「児童・生徒の健康診断マニュアル」 日本学校保健会、第一法規 その他、適宜紹介する。

《備考》

実習報告会に向けて4週間の内容を整理した、学校勤務に備える。授業担当者は、養護教諭免許を有し教職経験を持つ、実務経験者である。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
履修カルテ参照	養護実習の手引の目標を理解し、自らの目標に反映できる。
	養護教諭にとって必要な知識技術がわかり、その修得状況が確認できる。
	定めた実習目標を達成すべく実習全般を通して取り組み、自分で自己評価ができる。
	実習ノートの記載、事後の報告会のレジュメの作成、そして口頭発表まで、正確に情報発信ができる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	0
小テスト	0
レポート	0
発表・実技	30
授業内課題	10
その他()	60
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション	養護実習直前指導	実習内容の復習と実習準備	45分
2	保健指導の模擬	模擬授業、相互評価	実習内容の復習と実習準備	60分
3	保健室での執務	養護教諭の仕事内容	実習内容の復習と実習準備	60分
4	学校保健	養護教諭としての役割	実習内容の復習と実習準備	60分
5	目標に沿った事前指導	各自の目標の確認、実習校との打ち合わせ内容の確認	実習内容の復習と実習準備	60分
6	各学校の事前指導	保健指導、保健行事、担当クラス、保健室業務内容など	実習内容の復習と実習準備	60分
7	養護実習(1週目)	実習校の指導計画に則った実習	教育実践の記録と翌日の準備	60分
8	養護実習(2週目)	実習校の指導計画に則った実習	教育実践の記録と翌日の準備	60分
9	養護実習(3週目)	実習校の指導計画に則った実習	教育実践の記録と翌日の準備	60分
10	養護実習(4週目)	実習校の指導計画に則った実習	教育実践の記録と翌日の準備	60分
11	実習終了後の処置	礼状作成、実習内容の整理、異なる校種間での報告	礼状作成	60分
12	実習成果のまとめ	グループ討議	実習内容の整理	60分
13	実習成果のまとめ	グループ討議	実習内容の整理	60分
14	実習成果のまとめ	グループ討議	実習内容の整理	60分
15	実習成果のまとめ	グループ討議	実習内容の整理	45分

《専門教育科目》

科目名	養護実習	科目ナンバリング	HTY044002
担当者氏名	大平 曜子・米野 吉則・服部 紀代	担当形態	複担
授業方法	実習	単位・必選	4 ・ 選択
		開講年次・開講期	4 年 ・ 通年

《授業の概要》

これまでに修得したの専門知識や技術、理論や感性を実習を通じて確認し、自らの課題を明確にします。教員免許取得において実習準備と教育実践とともに事後の振り返りは重要です。実習の意義、目的、各自の目標と実践内容の振り返りを通して、実習の意味を再確認し、教育に携わる価値を確認します。また、実習報告会における発表を通じて、自らの課題を明確にするとともに、協働の中で自他の成長を確認し合い、より質の高い養護教諭へと成長することができます。

《授業外学習》

実習に向けて文献を参考に知識の確認と定着をはかる。基礎的技術の確認は、各自で実習室を有効に利用して行う。実習期間中の生活時間帯を想定して、規則正しい生活習慣を確立しておく。

《テキスト》

兵庫大学健康システム学科作成「養護実習の手引き」（授業の中で配布します）

《学習状況・理解度の確認》

実習記録「養護実習ノート」はコメントを付して返却する。

《参考図書》

『新養護概説』 采女智津江編 少年写真新聞社 『児童・生徒の健康診断マニュアル』 日本学校保健会 第一法規 その他、適宜紹介する。

《備考》

実習報告会に向けて4週間の内容を整理し、学校勤務に備える。授業担当者は、養護教諭免許を有し教職経験を持つ、実務経験者である。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
履修カルテ参照	養護実習の手引の目標を理解し、自らの目標に反映できる。
	養護教諭にとって必要な知識技術がわかり、その修得状況が確認できる。
	定めた実習目標を達成すべく実習全般を通して取り組み、自分で自己評価ができる。
	実習ノートの記録、事後の報告会のレジュメの作成、そして口頭発表まで、正確に情報発信ができる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	0
小テスト	0
レポート	0
発表・実技	30
授業内課題	10
その他()	60
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション	養護実習の確認と指導	実習内容の復習と実習準備	45分
2	養護実習(1週目)	詳細は養護実習実施要項参照	実習内容の復習と実習準備	45分
3	養護実習(2週目)	詳細は養護実習実施要項参照	実習内容の復習と実習準備	45分
4	養護実習(3週目)	詳細は養護実習実施要項参照	実習内容の復習と実習準備	45分
5	養護実習(4週目)	詳細は養護実習実施要項参照	実習内容の復習と実習準備	45分
6	実習報告会の準備	実習報告会の運営、実習報告内容の検討	内容のまとめと報告会の準備	45分
7	実習報告会の準備	実習報告内容の検討	内容のまとめと報告会の準備	45分
8	実習報告会の準備	実習報告内容の検討	内容のまとめと報告会の準備	45分
9	実習報告会	実習報告会の運営	振り返り	45分
10	実習報告会の振り返り	実習報告会の総括	振り返り	45分
11	養護実習のまとめ	養護実習の総括、課題確認と今後の対策	課題解決	60分
12	養護実習のまとめ	各自の実習から課題の確認と対策	振り返り	45分
13	養護実習のまとめ	各自の実習から課題の確認と対策	振り返り	45分
14	養護実習のまとめ	各自の実習から課題の確認と対策	振り返り	45分
15	養護実習のまとめ	各自の実習から課題の確認と対策	振り返り	45分

《専門教育科目》

科目名	教職実践演習（養護教諭）			科目ナンバリング	HTY044003
担当者氏名	服部 紀代			担当形態	単独
授業方法	演習	単位・必選	2	・ 選択	開講年次・開講期
					4 年 ・ II 期

《授業の概要》

養護教諭として求められる資質である①生命を守り育てる使命感や責任感 ②確かで実践的な管理能力、指導力 ③こころと体を見つめた児童生徒理解 ④保護者を含めた校内外組織の中で連携するコーディネーター的能力の4つの視点から外部講師による演習、ディスカッション、不登校児童生徒対策へのボランティア活動等を通して体験的に学ぶ。学校現場に即した授業内容を展開していく。

《テキスト》

オリジナルプリント、適宜紹介

《参考図書》

適宜紹介

《授業外学習》

自己課題をもとに予習復習を行うこと。

《学習状況・理解度の確認》

演習、ボランティア活動への積極的参加（50%） 課題レポート、発表（50%） レポートはコメントを付して返却し、発表には講評をする。

《備考》

Practical Seminar for Teaching Profession (School Nurse) ・アクティブラーニングゾーンを利用する場合もある。 ・学外で授業を実施する場合がある。（交通費自己負担） ・講師の都合により別の曜日に実施する可能性がある

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
◎ 履修カルテ参照	使命感や責任感の上に立った実践的指導力を有する教員としての資質の構築、確認を行う。
○ 履修カルテ参照	体験、演習、討議、発表をとおして教育課題を深く考えることができる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	
小テスト	
レポート	
発表・実技	50
授業内課題	
その他()	50
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション	授業の概要と到達目標、評価の方法を理解する。これまでの学習の振り返り、および履修カルテの確認をする。	課題レポートの作成	60分
2	教育相談：不登校児童生徒の理解	不登校の現状と対策、不登校児童生徒の理解と支援	資料の復習	45分
3	不登校児童生徒支援の実際1	加古川市不登校対策事業「アタック・ゴー」でのボランティア活動をとおして不登校支援について体験する	課題レポートの作成	60分
4	不登校児童生徒支援の実際2	加古川市不登校対策事業「アタック・ゴー」でのボランティア活動をとおして不登校支援について体験する	課題レポートの作成	60分
5	不登校児童生徒支援の実際3	加古川市不登校対策事業「アタック・ゴー」でのボランティア活動をとおして不登校支援について体験する	課題レポートの作成	60分
6	養護実習の専門性①	養護教諭に必要な専門性について理解する(講義、演習)	授業終了時に課題配付(予習・復習)	45分
7	養護教諭の専門性②	養護教諭に必要な専門性について理解する(講義、演習)	授業終了時に課題配付(予習・復習)	45分
8	保健室経営の実際①-1	養護教諭の多職種連携の実際について理解する(講義、演習)	授業終了時に課題配付(予習・復習)	45分
9	保健室経営の実際①-2	ライフスキル教育の実際について体験的に学ぶ(講義、演習)	授業終了時に課題配付(予習・復習)	45分
10	保健室経営の実際②-1	小学校、特別支援学校における保健室経営の実際について理解する(講義、演習)	授業終了時に課題配付(予習・復習)	45分
11	保健室経営の実際②-2	小学校、特別支援学校における保健室経営の実際について理解する(講義、演習)	授業終了時に課題配付(予習・復習)	45分
12	保健室経営の実際③-1	中学校における保健室経営の実際について理解する(講義、演習)	授業終了時に課題配付(予習・復習)	45分
13	保健室経営の実際③-2	中学校における保健室経営の実際について理解する(講義、演習)	授業終了時に課題配付(予習・復習)	45分
14	養護実習の学び	養護実習の学びをまとめ、プレゼンテーションを行う。	授業終了時に課題配付(予習・復習)	45分
15	まとめ	チェック表による振り返り、および履修カルテの確認、提出を行う	学習の整理	45分